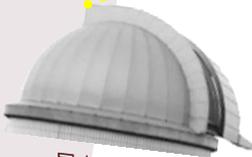


【天体観測ドーム 今月の OPEN 日】



7/4(土), 5(日), 11(土), 12(日), 18(土), 19(日), 22(水)~26(日)



屋上・天体観測ドーム

こんにちは！

梅雨に入りましたが如何お過ごしですか？天体観測ドームは6月1日よりまたオープンしていますが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、一度のご入場は5名までと制限させていただいております。

また夏休みの短縮等の事情により、例年おこなっている夏休み天体観測ドーム特別開放も中止となりましたのでお知らせいたします。

今月も、元気に頑張りましょう♪

7/5~6 木星と土星へ月が近づく
 7/7 七夕
 7/10 金星が最大光輝
 7/12 月と火星が接近
 7/12 金星とアルデバランが大接近
 7/17 月が金星とアルデバランに近づく
 7/19 月と水星が並ぶ
 7/21 土星が衝
 7/23 水星が西方最大離角
 7/30 みずがめ座δ流星群

コンパルホール

星空通信

2020年 7 月号



topic

科学誌「NATURE」に初めて掲載された日本人の論文

『東洋の星座』を書いた、南方熊楠

みながたくまぐす
南方熊楠は明治～昭和の博物学者・植物学者で、日本人で初めて、イギリスの科学誌「NATURE」に論文が掲載された人です。初出となった熊楠 26 歳の論文タイトルは『東洋の星座』。NATURE 読者の質問投稿に答える形で書かれたもので、「中国、ポリネシア、インド、アフリカ、アメリカなどの民族はそれぞれ固有の星座構成を用いているか。」「もしそれぞれの民族が固有の星座を用いているとすれば、それによって各民族の近親関係を判断することができないか。」などの難解な問いに、堂々と答えた内容です。熊楠が自然科学に関する膨大な知識を蓄えたのは、10 歳から 5 年もかけて『和漢三才図会』（江戸時代の百科事典）全 105 巻を筆写したことによるようです。この若さで、西欧の知識人と対等にわたりあったのですからたいしたもの！ちなみに生涯を通じて「NATURE」に掲載された論文数は 51 篇にもほぼり、なんと世界で歴代 1 位だそうです。

幼い時の礎がいかに大切かということ…いや、そもそも普通の子どもは 5 年もかけて百科事典を全巻写さない（笑）。熊楠の非凡さが伺えるエピソードの一つです。



「和漢三才図会」

（国立国会図書館デジタルコレクションより）
第一巻：天文 の中国の星座解説図。

熊楠が少年時代に筆写し、初論文でも参考としたであろう部分。他にも「隕石生成」や「星の大小」など、多岐にわたり天体の仕組みを掲載している。
※太微垣とは、古代中国天文学で天体を 3 区画に分けたうちのひとつ。

東経 131 度 36 分 50 秒、北緯 33 度 13 分 55 秒に位置するコンパルホール。屋上（7 階）には、直径 5 メートルの電動回転式ドームがあります。最大倍率約 275 倍のニュートン式 300 ミリメートル反射式望遠鏡を 1 台、さらに、100 ミリメートル屈折式望遠鏡 4 台を備えています。観望時には指導員が星空の解説をおこない、望遠鏡の操作説明もします。大分の街中に、ふらりと星を見にいりませんか？

今月の惑星情報

火星

日の出前の南東から南の空に見え、
明るさはマイナス 0.5 等～マイナス 1.1 等

金星

水星

日の出前の東の空で明るく輝いています。
明るさはマイナス 4.5 等からマイナス 4.4 等。
日の出前の東の低空に位置。
28 日以降、高度が出て観察しやすくなります。

木星

真夜中の南の空、明るさはマイナス 2.7 等。
14 日に観望の好機を迎え、マイナス 2.8 等に達す。

土星

21 日に観望の好機を迎えます。
真夜中の南の空、明るさは 0.2 等～0.1 等。

★曇天時のお問い合わせ★

097-538-3700 (コンパルホール)

